

= はじめに =

このメールマガジンは、国土交通省において収集した事業用自動車に関する事故情報等のうち重大なものについて、皆様に情報提供することにより、その内容を他山の石として各運送事業者における事故防止の取り組みに活用していただくことを目的として配信しています。

= 目 次 =

1. 重大事故情報 = 9件 (2月18日～2月24日分)
 - (1) 乗合バスの車内事故 1
 - (2) 乗合バスが歩行者を轢いた事故
 - (3) 乗合バスの車内事故 2
 - (1) 乗合バスが歩行者を撥ねた事故
 - (2) 貸切バスがトラックと衝突して横転した事故
 - (3) 貸切バスの車両火災事故
 - (4) 乗合バスの車内事故 3
 - (5) 乗合バスが歩行者を撥ねた事故
 - (6) 乗合バスなどが多重衝突した事故
 - (7) タクシー運転者が傷害を受けた事件
 - (8) トラック運転者の酒気帯び運転による事故
 - (9) トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕された事故
2. 平成22年中の大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の状況 (再周知)

【1. 重大事故情報 = 9件】 (2月18日～2月24日分)

(1) 乗合バスの車内事故 1

2月17日午前10時25分頃、神奈川県バス停において、乗合バスが、乗降扱いを終えて発進したところ、当該バス停で乗車してきた乗客(女性、69才)が転倒した。

この事故により、転倒した乗客は橈骨骨折の重傷を負った。

事故現場は、緩い上り坂の片側一車線の道路で、当該バスの運転者は、発車の際、注意喚起のための車内アナウンスは行ったが、車内の乗客の様子を十分に確認することなく車両を発進させた模様。

(2) 乗合バスが歩行者を轢いた事故

2月18日午後7時頃、福岡県の駅前ロータリーにおいて、乗客を降ろした乗合バスが待機場所まで移動するため右旋回していたところ、歩行者(女性、

65才)を撥ねた。

この事故により、撥ねられた歩行者は病院に搬送されたが死亡した。

当該バスの運転者は、警察に対し、運転中「ゴツン」という衝撃を感じたため当該バスを停車させて確認したところ、当該バスの中央下部に歩行者が倒れていたと話している模様。

(3) 乗合バスの車内事故2

2月18日午前8時35分頃、兵庫県のバス停において、乗合バスが停車するため減速した際、降車準備のため立ち上がった乗客(男性、84才)が転倒した。

この事故により、転倒した乗客が左大腿骨転子部骨折の重傷を負った。

当初、転倒した乗客は、降車扉(中扉)付近の左側の座席に座っていた模様。

なお、当該バスは、ノンステップバスで、座席付近床面に段差はなかった。

(4) 乗合バスの車内事故3

2月18日午前10時20分頃、福岡県のバス停において、乗合バスが乗車扱いを終えて発車したところ、このバス停で乗車してきた乗客(女性、76才)が転倒した。

この事故により、転倒した乗客が左大腿骨付根部骨折の重傷を負った。

事故当時、転倒した乗客は、着席しようとした座席が車両前部のタイヤハウス上で乗りにくかったため、他の座席に移動しようとしていたが、当該バスの運転者は、着席しないものと判断し「発車します、動きますのでご注意ください」との車内アナウンスを実施した後、発車したところ、当該乗客はバランスを崩して転倒した模様。

(5) 乗合バスが歩行者を撥ねた事故

2月20日午後10時45分頃、静岡県において、乗合バスが乗客4名を乗せて運行中、道路を横断していた歩行者を撥ねた。

この事故により、撥ねられた歩行者が死亡した。

当該バスの運転者は、撥ねられた歩行者が、道路を右から左へ手押し車を押し横断していたのを発見し、急ブレーキをかけたが間に合わずに撥ねた模様。

(6) 乗合バスなどが多重衝突した事故

2月22日午前2時25分頃、静岡県の高速度(片側二車線)において、乗合バスが乗員乗客10名を乗せて走行中、当該バスの2台前方を走行していた大型トラックが大型トレーラに追突したのをきっかけに、その後方を走行していた中型トラックが当該大型トラックに、当該バスが当該中型トラックに次々と追突した。

この事故により、当該バスの運転者が重傷、当該バスの乗客8名を含む計11名が軽傷を負った。

(7) タクシー運転者が傷害を受けた事件

2月18日午前2時30分頃、愛知県において、タクシーに乗車していた男が「金を取ってくる」と言ってタクシーを降車した後、運転席側に回り込み、運転者を引きずり下ろし、殴る蹴るの暴行を加えて逃走した。

この事件で当該タクシーの運転者は顔面打撲の軽傷を負った。

なお当該車両には、防犯用仕切板は設置されていた。

(8) トラック運転者の酒気帯び運転による事故

2月10日午前11時頃、兵庫県において、トラックが信号待ちで停車していた軽自動車に追突し、そのはずみで追突された軽自動車が前方に停車していたライトバンに追突した。

この事故により、当該軽自動車の運転者が負傷した。

警察が現場に到着した際、当該トラックの運転者から酒の臭いがしたため、警察が飲酒の有無について検査したところ、呼気1リットル中0.2ミリグラムのアルコールが検出された。

なお、当該トラックの車体が傾いていたため、警察が車両を計量したところ、最大積載量の5割を越える過積載も判明した。

(9) トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕された事故

2月22日午前2時頃、群馬県の片側一車線の道路において、大型トラックがセンターラインを越えて走行し、対向してきた貸切バス(乗客39名)と接触したが、当該トラックはそのまま逃走した。

この事故により、当該バスの乗客1名が軽傷を負った。

当該トラックは、約30分後、事故現場に戻ってきたため、警察は、当該トラックの運転者を自動車運転過失傷害と道路交通法違反(救護義務違反)疑いで逮捕した。

当該トラックの運転者は、警察に「ぼーっとしていた。」と供述している模様。

【 2 . 平成 2 2 年中の大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の状況 (再周知) 】

今般、平成 2 2 年中の大型車 (車両総重量 8 トン以上又は乗車定員 3 0 人以上のトラック、バス等) のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の発生状況 (速報) がまとまりました。

< 発生状況 >

車輪脱落事故は近年減少傾向にありましたが、平成 2 2 年に発生した事故は 2 4 件あり、平成 2 1 年に比べ 1 1 件増加しています。

平成 1 1 年から平成 2 2 年までに発生した事故は 3 4 1 件であり、月別の発

生状況を見ると2月に59件、3月に51件と特に2、3月の冬から初春の時期に発生が集中しています。

また、地域別の発生状況を見ると積雪地域の発生率が高い傾向が見られます。

大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故については、一度発生するとその影響は甚大なものとなります。

そのため、大型車の使用者は、日常点検においてホイール・ナットの脱落・緩みやホイール・ボルトの折損等の異常の有無を重点的に点検してください。

ホイール・ボルト折損の主な原因は、ホイール・ボルトの締付力不足、ホイール・ボルトの誤組（スチールホイールにアルミホイール用のボルトを使用する等）、ホイール・ボルトの過締めと推定されています。

2、3月に発生が多くなる原因の1つとして、例年10月から12月にかけて夏用タイヤから冬用タイヤに交換する際に締結不良（締付力不足、誤組、過締め等）があり、ボルトの疲労破壊が進行して数ヶ月後に集中的に折損し、車輪の脱落が発生することが考えられます。

詳細につきましては、下記URLを参照願います。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000039.html

【メールマガジン「事業用自動車安全通信」】

発行 国土交通省自動車交通局安全政策課

*このメルマガについてのご意見は、< jiko-antai@mlit.go.jp >までお寄せください。

よくある質問（配信登録の解除方法等）

（ <http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/anzenplan2009/faq.html> ）

【参考】

*自動車交通局ホームページ

（ <http://www.mlit.go.jp/jidosha/index.html> ）

*自動車の不具合情報はこちら

最近、自動車に乗っていたら異常発生、なんてことはありませんでしたか。そんな時は、車検証を用意して、国土交通省「自動車不具合情報ホットライン」に連絡です。皆様の声は、車種ごとに、ホームページ上で公開され、メーカーがきちんとリコールをしたり、メーカーのリコール隠しを防ぐために活用されます。

・ホームページ受付（ www.mlit.go.jp/RJ/ ）

・フリーダイヤル受付 0120-744-960

(平日9:30~12:00 13:00~17:30)

・自動音声受付 03-3580-4434 (年中無休・24時間)

* 自動車のリコール等の通知等があったときは！

使用されている自動車について、自動車ディーラーなどから、リコール又は改善対策の通知が送付されたり、その対象であることが新聞等で公表されたときは、安全・環境への影響から、その自動車の修理を行うことが必要になったということです。道路運送車両法により、自動車ユーザーは、自分の自動車が保安基準に適合するよう点検・整備する義務がありますので、忘れずに修理を受けましょう。